

令和7年度 南中学校・南小学校・高津小学校ラウンドテーブル 議事要旨

1 日 時 令和8年3月24日(火)18時30分～20時10分

2 場 所 中央区役所 7階会議室

3 出席者

・委員(50音順・敬称略)

加藤道仁連合振興町会長、清田大宝連合振興町会会長、首藤青少年指導員連絡協議会南小校下会長、長谷南中学校学校協議会会長、松阪高津連合振興町会副会長、光武南中学校体育施設開放事業運営委員会委員長、山口高津小学校学校協議会会長

・行政関係

(中央区役所)

松田区担当教育次長、小林区教育担当部長、覺野市民活動支援・教育担当課長

(教育委員会)

近藤指導部英語イノベーション担当課長、糸川指導部次席指導主事、山崎指導部人権・国際理解教育グループプレクラスコーディネーター

(学校園)

関谷南中学校長、池田南小学校長、柿野高津小学校長

・司会：関口市民活動支援・教育担当課長代理

4 傍聴者 1名

5 次 第

(1) はじめに

(2) 区担当教育次長あいさつ

(3) 委員の紹介および座長の選任について

(4) 議題

(5) 閉会

6 議事要旨

(1) はじめに(ラウンドテーブルについて)

司会より、当ラウンドテーブルの設置目的、会議主旨について資料に基づき説明した。

(2) 区担当教育次長あいさつ

会議参加へのお礼、中央区の教育環境の現状、会議開催の趣旨について述べた。

(3) 委員の紹介および座長の選任について

委員紹介の後、委員の互選により、座長に長谷氏、副座長に山口氏を選任した。

(4) 議題

中央区内の市立学校の現状等について

市民活動支援・教育担当課長代理より、中央区内の市立小・中学校における学級数・児童生徒数等の現状及び将来推計、令和13年4月開校予定の新設小学校の整備計画・スケジュール、南地域（南中・南小・高津小）の未就学児数や入学率、外国につながるの児童生徒の状況、学校の適正配置の考え方と小規模校の課題・効果等について資料に基づき説明し、現状や課題等について意見交換を行った。

【主な意見】

<学校の状況について>

- ・（南中学校）小規模を生かし、教員が全学年の児童生徒を把握でき、地域に見守られて育つ「優しい空気」が強みである。そういった特色を求めて校区外から入学を希望するご家庭もある。
- ・（南小学校）児童の半数以上が「外国につながる」背景を持ち、日本語が全くできずに入学する子も多いが、日本語指導担当が多数配置されるなど、支援の手厚さと多文化共生のアウトホームさが特色である。また、地域の見守りで安全・安心な登校ができています。
- ・（高津小学校）小規模ゆえクラス替えができず多様な意見に触れにくい等の課題がある一方、学年縦断の活動や学年合同の行事で学年間のつながりを重視している。地域（老人会等）の協力が強く、地域と一体で学校を盛り上げている。

<収容対策（新校設置）や適正配置（統廃合）の課題について>

- ・南小学校区に設置を予定されている新設校の「新しさ」「近さ」で地元（南小学校等）の入学率がさらに下がるのではないかと。
- ・多様性・伝統文化・地域の支えなど魅力はあるが、外部に伝わりにくく、結果として指定校に入学しない流出が起きているのではないかと。
- ・卒業生・保護者の声を冊子化して就学前家庭へ届けるなどの提案が必要ではないかと。
- ・南中学校周辺の条件（グラウンド等）を生かし、小中一貫校の設置を検討してはどうか。
- ・南小学校・高津小学校は形を変えて残す可能性も含め、区内7小学校全体で再編を考えるべきである。
- ・外国人比率の高さが誤解・不安を生み、南小学校を避ける動きもある。
- ・学校の魅力は実体験しないと伝わりにくいので、これから就学を迎える世帯へ直接届く広報が必要である。
- ・チラシ等だけでは新設校のインパクトに勝てず、同等の投資（校舎刷新級）や「最先端教育」など強い特色づくり、相当な予算措置が必要ではないかと。
- ・過去の学校統廃合・用地売却の結果として現在の過密問題が生じているのであり、行政が本気で対処すべきである。
- ・過密校の要望は通る一方で、小規模校には厳しく迫っているように感じる。

<今後について>

- ・会議は継続し、資料の追加・意見収集を重ね、検討を深めていく。